

多野藤岡医療事務市町村組合
公立藤岡総合病院だより

SASAEI

2021
No.37

さ さ え あ い

内視鏡のこと

ご自由にお持ちください

多野藤岡医療事務市町村組合
公立藤岡総合病院だより

SASAEI ささえあい 2021 No.37

〒375-8503 群馬県藤岡市中栗須813番地 1 公立藤岡総合病院 経営管理部 企画財政課
TEL 0274-22-3311(代表) / FAX 0274-24-3161



編集後記

旧公立藤岡総合病院の解体工事も本格的に始まりました。

事務処理を行う中で見つけた二枚の上空からの写真。

「旧病院」「新病院」

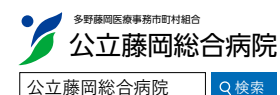
時の流れの中で、よりよいものへその姿を変えていきます。いくつもの障害を乗り越え：

新型コロナウイルスも落ち着きを見せ始めたでしょうか。

「コロナ禍の時代」から

「コロナ後の時代」へ。

よりよい時代を望み、前を向いていきましょう。



公立藤岡総合病院

検索



多野藤岡医療事務市町村組合
公式Instagram
@fujiooka_general_hospital

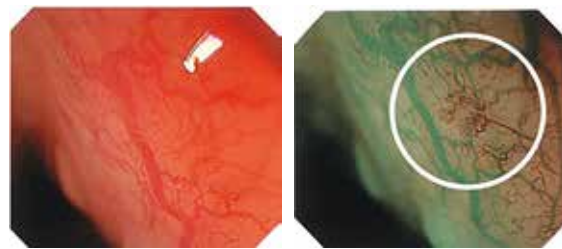
公式Youtube



NBI（狭帯域光観察）

がんの増殖には血管からの栄養補給を必要とするため、病変の近くの粘膜には、小さな血管が集まりやすくなります。そのため、この小さな血管の集まりをいち早く発見することが、がんなどの病変の早期発見には重要です。

そのために用いられる技術が、「NBI（Narrow Band Imaging）」です。NBIは、血液中のヘモグロビンに吸収されやすい紫と緑の2つの特殊な光を照らすことで、粘膜表層の毛細血管やそのパターンなどが強調して鮮明に表示される観察技術です。これにより、通常光による観察では見えづらかったがんなどの病変の早期発見に貢献することが期待でき、最適な治療判断、病変診断に繋がります。



食道の通常光観察画像

NBIでの画像

NBIでは、粘膜表層の毛細血管が強調して表示されます。



RDI（赤色光観察）

胃や大腸などの病変を内視鏡で見ながら切除する内視鏡治療では出血を伴うことが多く、出血への迅速で確実な対処が重要となります。「RDI（Red Dichromatic Imaging）」は、粘膜などの深い部分にある血管や出血部分を見やすくし、内視鏡治療時に出血を起こすリスクを下げることや治療時間の短縮を目指した画像強調観察技術です。

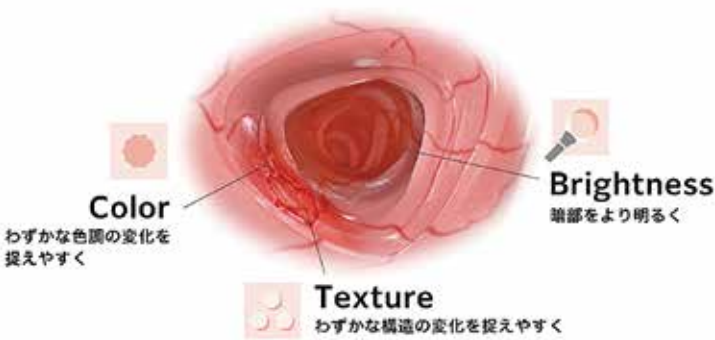
RDIでは、通常の内視鏡観察で使用する白色光とは異なる光を用います。アンバー色（琥珀色）の光を緑色・赤色の光とともに用いる特殊な観察方法で、このアンバー色の光が深い部分にある血管や出血部分を見やすくする役割を担っています。治療時に血管を避けることが容易となり、出血のリスクを下げることをサポートします。また、出血部分をとらえるのに役立ち、出血部分や出血の流れを色の濃淡で確認でき、止血すべき部分がわかりやすくなります。

TXI（構造色彩強調機能）

内視鏡の検査では通常、胃や大腸の粘膜に光を当てて観察し、粘膜表面の色の違いや形状の変化を手がかりに病変を探していきます。

しかし、色調の変化が小さい病変や凹凸の少ない平坦な病変は見つけにくいことがあります。「TXI（Texture and Color Enhancement Imaging）」は、画像処理技術によって病変をより見つけやすくすることを目指した画像強調技術です。

TXIは、粘膜表面の「構造」「色調」「明るさ」の3つの要素を最適化する画像協調技術で、TXIを活用することにより通常光観察では見づらい画像上のわずかな色調や構造の変化が強調され、従来では見えづらかった粘膜表面のわずかな色調や構造の変化がより分かりやすく表示されます。



最先端内視鏡システムを導入。

当院内視鏡センターは、主に消化器内科・消化器外科の消化管内視鏡検査・治療と呼吸器内科による気管支鏡検査を実施しています。外来内視鏡室は日帰りの胃カメラ、大腸カメラと人間ドックの検査を実施し、入院棟内視鏡室では緊急検査・治療、気管支鏡等の入院治療に対応しています。医師は常勤・非常勤ともに日本消化器内視鏡学会認定の専門医です。

内視鏡センター所属の看護師は15名で、そのうち9名が消化器内視鏡技師の免許を取得しており、専門性の高い医療・看護を提供しています。最新の機器を導入し、胃潰瘍、十二指腸潰瘍や胃がん、大腸がんなどの早期発見・早期治療に努めるとともに、患者さんが安心して検査を受けられるよう、スタッフ一同、日々研鑽に努めています。

公立藤岡総合病院だより

SASAEAI

さ さ え あ い

病院の理念

地域住民から信頼される医療

基本方針

- 1 患者さんの権利と意思を尊重し、患者本位の医療を提供します。
- 2 地域中核病院として、救急医療、高度専門医療の充実に努めます。
- 3 地域の医療・介護・保健機関と密接な連携を行います。
- 4 次世代の医療従事者の教育・研修に貢献します。

上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)

総数
6321件
(2019年度実績)

総数
4740件
(2020年度実績)

当院では、胃カメラを鼻からも行うことができます。経鼻内視鏡は直径5mmと、経口内視鏡の半分ほどの太さです。また、鼻から入れる場合は舌の根元に内視鏡が触れないのでほとんど吐き気を催すことなく検査が受けられます。ご希望で選ぶことができますので、予約の際はお声掛けください。

気管支鏡検査

総数
105件
(2019年度実績)

総数
76件
(2020年度実績)

内視鏡的逆行性胆道膵管造影

総数
84件
(2019年度実績)

総数
72件
(2020年度実績)

下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)

総数
1755件
(2019年度実績)

総数
1430件
(2020年度実績)

大腸カメラを行うには、検査の3日前から下剤を内服し、検査当日には腸管洗浄液を2リットル服用します。主治医の許可で、検査時間に合わせて自宅での服用も可能ですが、病院内で服用する場合でも前処置スペースには多数のトイレを完備し、プライバシーに配慮した対応をしています。当院の検査の特徴として、空気を使って腸を広げる代わりに、空気より体に早く吸収される炭酸ガスを使用し、検査後のお腹の張りや痛みを起しにくくしています。



新型コロナウイルス感染症が長期化する中で、通常の内視鏡検査・治療が継続できるよう感染対策を行ってまいります。安全・安心に内視鏡診療が受けられるよう、内視鏡機器の整備・洗浄・消毒を行い、内視鏡診療に携わる医療スタッフの健康管理を徹底しております。

病院長補佐兼安全管理センター長
兼内視鏡センター長

設 楽 芳 範 (Yoshinori Shitara)

内視鏡センター 処置・検査実績



当科では主に消化管疾患の診断、治療を行っております。入院では消化管出血、異物誤飲に対する緊急内視鏡処置、早期胃がん、早期大腸がんおよびポリープの内視鏡治療を行い、胆道感染症、急性膵炎、また進行消化器がんの化学療法、緩和治療をしております。

外来では主として消化器外来、外来患者および健診受診者の内視鏡検査を実施しております。外来対応疾病としては消化性潰瘍、逆流性食道炎、炎症性腸疾患が主体で、その他検診二次の需要が増えております。ピロリ菌感染胃炎の除菌治療や、大腸ポリープの内視鏡切除も行っております。

消化管疾患は救急疾患、悪性疾患に対する検査、治療が多いため、消化器外科をはじめとする他科や専門スタッフと協力して迅速かつ質の高い診療を行えるよう努力していきます。

消化器内科 部長

山 口 泰 子 (Yasuko Yamaguchi)



ポリペクトミー(EMR含む)

症例数
454件
(2019年度実績)

症例数
392件
(2020年度実績)

止血術(クリップ含む)

症例数
91件
(2020年度実績)

異物摘出術

症例数
11件
(2019年度実績)

症例数
15件
(2020年度実績)

内視鏡的拡張術

症例数
33件
(2019年度実績)

症例数
18件
(2020年度実績)

内視鏡的逆行性胆汁ドレナージ

症例数
84件
(2019年度実績)

症例数
72件
(2020年度実績)

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)

症例数
16件
(2019年度実績)

症例数
21件
(2020年度実績)

近年、検査法の進歩により早期に見つかる消化管のがんが多くなっています。早期胃がんの内視鏡治療は、開腹手術や腹腔鏡手術に比べ、胃を切り取らないため胃の機能が失われることはありません。入院期間も1週間程度で済むため、患者さんの満足度が高い治療です。

黒岩整形外科医院

上里町



院長 黒岩 茂夫 Shigeo Kuroiwa

昭和63年東松山市民病院初代整形外科部長を最後に日本大学整形外科医局を退局。生まれ故郷本庄市にできた本庄総合病院に初代整形外科部長に就任。

平成8年8月2日現在地（偶然にも1964年東京オリンピックの伴走者として走った中継点の三筋南）に開業して26年目に入ります。

整形外科専門医として診断治療に当たっています。外来のできる手術としてはばね指、陥入爪、ガングリオン、四肢の小外傷アテローム、ケルバン氏病をしています。整形外科疾患は多岐にわたり、3、4ヶ月健診（先天性筋性斜頸、内反足、先天性股関節脱臼）小中高校生のスポーツ外傷、各関節の変性疾患、炎症性疾患、腫瘍性疾患と幅広く、最近は高齢者が多く、骨粗鬆症を基盤とした椎体骨折、大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折が増え、保存的治療か外科的治療かの診断治療に公立藤岡総合病院整形外科に紹介して適切なアドバイスを受けて助かっています。

住民健診、産業医、コロナワクチン集団接種、介護保険審査委員会等地域医療に貢献できればと思っています。

保有資格：整形外科専門医・認定産業医・労災指定医・身体障害者指定医・難病指定医



〒369-0306 埼玉県児玉郡上里町七本木2363-5 TEL 0495-34-0551

診療時間：午前9:00～12:30 午後2:30～6:30

※木曜は12:30まで 休診日は日曜・祝日

七本木内科クリニック

上里町

内科の循環器を標榜して診察していますが、患者さんは小児から高齢者まで、又、疾患の種類も多岐に渡り、総合診療医としての能力の必要性を感じる毎日です。突然来院する患者さんの中には、急性下壁心筋梗塞より僧帽弁閉鎖不全を起こした男性、慢性骨髄性白血病の急性転化をきたした男性、呼吸苦で来院した男性の胸部X線に写りこんだ大きな腫瘍等々。患者さんよりこちらの心臓が止まりそうな症例も数多く経験するようになり、その都度、公立藤岡総合病院にお世話になりました。

疾患の治療ばかりではなく、人間ドックの結果説明を受けただけでさっぱりわからない、と来院される方。身体症状の裏に精神科上の問題を抱える方。ケースによっては他の診療科を紹介する場合があります。

どうか気楽に受診なさってください。



〒369-0306 埼玉県児玉郡上里町七本木1788-7 TEL 0495-35-1313

診療時間：午前9:00～12:00 午後2:30～6:00 ※休診日は木曜・日曜・祝祭日

登録医のご紹介

おおすかこどもクリニック

藤岡市



院長 大須賀 稔 樹 Toshiki Osuka

2017年5月より藤岡警察署近郊にクリニックを開設し診療を行っております。

小児科領域全般に対応させていただいています。

少子化傾向でありますが藤岡市地域を中心に生活するこどもたちの健康を守り、こどもたちが元気に未来へ踏み出せることを目標に診療を続けています。

併せて育ててくれているご家庭の皆さんの健康についてもアンテナを張り、養育者様の健康も守って行けるように日々努力しています。

小生の微力ではこどもたちの健康維持は到底叶いません。診療に困窮したとき、藤岡総合病院様のお力があることで適切な一次診療を続けられます。

診療技術、医学知識の習得をたゆまずに続けて地域医療の向上に貢献していきます。

今後ともよろしくお願いいたします。



〒375-0024 藤岡市藤岡1678-1 TEL 0274-25-8676 FAX 0274-25-8677 <http://oosuka-kids-clinic.com/>

診療時間：午前9:00～12:00 午後2:00～6:00 ※水曜・土曜は12:00まで 休診日は日曜・祝祭日

しろやしき内科

藤岡市



院長 今村 誠 Makoto Imamura

もともと内分泌（甲状腺）、糖尿病を専門にしていたところから、病院勤務医の頃より糖尿病、甲状腺を中心に診察していました。

さらに糖尿病は高血圧、脂質異常症とも関連が深いことから、現在当院においても糖尿病、甲状腺疾患、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病を中心に診察しています。それ以外の病気に関してもご相談していただければ、多少力になれると思います。

当院は令和元年度に開院しました。公立藤岡総合病院と協力しながら糖尿病の事業などを行いたいと思っていましたが、コロナ禍のためなかなか行いたいことができません。コロナが落ち着いた際には少しずつ始めたいと思っていますので、その際はご協力よろしくお願いいたします。



〒375-0024 藤岡市藤岡1763-3 TEL 0274-50-8320

診療時間：午前9:00～12:00 午後3:00～6:00

※木曜は12:00まで 土曜は13:00まで 休診日は日曜・祝日

管理栄養士

診療支援部 栄養室

堀越 勝 Masaru Horikoshi

フレイル予防の食事のポイントは3つ。①3食食事ができているか ②1日2回以上、主食（ご飯やパンなど）・主菜（肉や魚など）・副菜（野菜）がそろっているか ③食品の偏りがないか。特にたんぱく質やエネルギー量が不足すると筋肉が減り、心身の機能が衰えます。たくさん食べられない時はご飯やパンなどよりもおかずを中心に食べるとよいでしょう。肉や魚、大豆製品、卵、乳製品などのたんぱく質は片手に乗るくらいの量が目安となります。食事制限がある方はかかりつけ医の指示に従ってください。まずはしっかり栄養が摂れているかご自身やご家族の食生活を見直してみましょう。そして、元気にフレイル予防を行い健康寿命を延ばしましょう。



言語聴覚士

診療支援部 リハビリテーション室

松井 里紗 Risa Matsui

最近、ご自身またはご家族の方などで「食事時に食べこぼしが多い」「硬い物が噛めなくなった」「ムセやすくなった」などの症状はありませんか？「オーラルフレイル」の可能性があります。オーラルフレイルとは、加齢による口腔機能の低下のことを言い、摂食嚥下障害（誤嚥など）を生じる手前の状態です。放置していると、咀嚼機能の低下や摂食嚥下障害を引き起こすことに繋がります。さらに、オーラルフレイルをきっかけに全身の衰弱も招きやすくなります。好きな物やおいしい物を食べ続けるために、早い段階から予防に取り組むことが大切です。口腔内を清潔に保つこと（歯磨き、歯科受診）や口や頸部を動かす体操を行い、フレイルの予防に繋がましょう。

理学療法士

診療支援部 リハビリテーション室

前田 美紗子 Misako Maeda

皆さん、「疲れやすい」「歩くのが遅くなった」「運動する機会が減った」「体重が減った」等と思い当たる節はありませんか？身体的フレイルはそのような現象が起こりやすく、主観的に不健康だと感じる人はフレイルのリスクが高くなり、健康寿命も短くなってしまう可能性があります。またコロナ禍で外出する機会が減少し、体を動かす機会が無くなっている人も多いと思います。運動介入による効果は、歩行、筋力、身体運動機能、日常生活活動度を改善し、フレイルの進行予防が可能です。こんなご時世ですが、独り～地域の方々など幅広い生活範囲で継続した運動習慣を身に付け、健康寿命を延ばせる生活を送れるように、一緒に体を動かしてみましょう。



フレイルの進行を予防するために

「フレイル」とは…

加齢に伴い、だんだんと体の力が弱くなり、外出する機会が減り、病気になることなく

手助けや介護が必要となつてきます。このように、心と体の働きが弱くなつてきた状態をフレイル（虚弱）と呼びます。

新型コロナウイルス感染症予防のために外出を控えることで、活動量の低下や人との交流が減り、フレイルになることが懸念されています。

新型コロナウイルス感染症に気を付けるとともに、フレイルにも注意していきましょう。

誤接続防止コネクタを導入します。

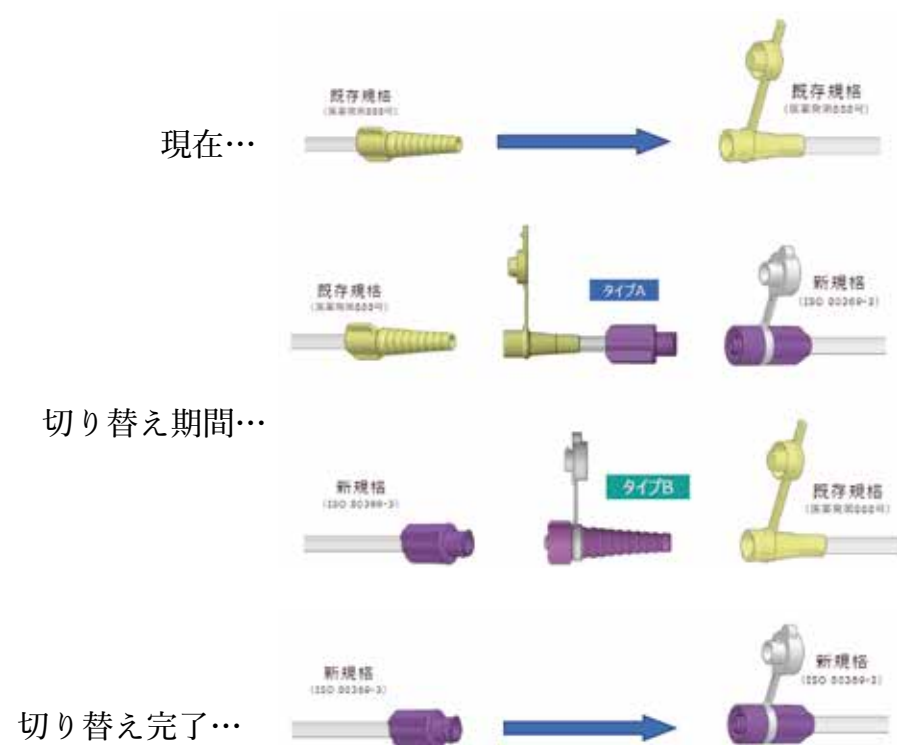
この度当院では、厚生労働省発出の「相互接続防止コネクタに関する国際規格（ISO803296シリーズ）の導入について」を受け、2021年9月1日より経腸栄養分野において誤接続防止コネクタ製品を導入することになりました。

当院の製品切り替え予定

栄養カテーテル使用中の入院患者さんは、9月1日以降順次栄養カテーテルの交換に合わせて製品を切り替えていきます。2021年11月までに切り替え完了の予定です。

今後の対応

当院の患者さんは、栄養カテーテルが既存規格または新規規格で転院となります。連携施設様により、新規コネクタ導入時期が様々であることから、9月1日より当院を転出される患者さんで、変換コネクタタイプA・タイプBが必要な場合は付属いたします。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



連携施設様へのお願い

経腸栄養分野の既存コネクタ製品は、2022年11月末日までに各社の出荷が終了いたしますので、各施設様におかれましても、新規規格製品への切り替えや変換コネクタ等の情報確認・準備をお願いいたします。

公立藤岡総合病院 NST 専従看護師

地域医療支援病院として 令和2年度活動報告

甲賀 英明 Hideaki Koga

副院長兼患者支援センター長

日頃より当院の地域医療に格別なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

地域医療支援病院は、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的とし、地域に必要な医療を確保しています。

医療連携（紹介率、逆紹介率）、救急医療の提供、医療機器の共同利用、地域の医療従事者に対する研修、退院調整部門の設置、地域医療連携バスの普及が求められています。

このための具体的な方策として、

- ①「可能な限り受け入れる」救急医療への取り組み、受け入れ率の向上、受け入れ不能例の検証を行っています。
- ②地域医療連携＝顔の見える関係を目指します。患者紹介に対する返書の徹底
- ③患者支援センターを設置し、よりスムーズな入院支援を進めます。
- ④地域連携クリニカルパスをより一層推進していきます。
- ⑤地域住民への情報発信（広報誌ささえあい）を積極的に行います。

昨年度実績として、**地域医療支援病院紹介率は65.5%、逆紹介率は86.0%、登録医は268名、登録医療機関は242医療機関**でした。

今後も地域医療機関とより一層の連携を推進してまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



	令和元年度	令和2年度	前年比
入院1日平均患者数	314.3人	270.4人	-43.9人
病床利用率 地域包括ケア病棟	77.3%	35.4%	-41.9%
回復期リハビリテーション病棟	82.5%	81.7%	-0.8%
DPC病棟	83.1%	75.0%	-8.1%
救急車受け入れ数（年間統計）	4,566件	3,992件	-574件
地域医療支援病院紹介率	61.2%	65.5%	4.3%
地域医療支援病院逆紹介率	90.8%	86.0%	-4.8%
外来1日平均患者数	756.9人	634.0人	-122.9人
登録医状況	241医療機関265名	242医療機関268名	1医療機関3名
大腿骨頸部骨折地域連携バス	58人	59人	1人
脳卒中地域連携バス	52人	43人	-9人
5大がん地域連携バス	37人	24人	-13人
地域医療従事者への研修	24回	6回	-18回